

「Society5.0に向けた人材育成について」

Society5.0に向けたリーディング・プロジェクトに「地域の良さを学びコミュニティを支える人材の育成」が明記されたのはよかった。

地方が輝かなければ日本は輝かない。この度、SGHにもアドバンス型とリージョナル型の2類型が創設された。今後、地方にもグローバルの意識が高まっていくだろう。

ただし、「地方の良さを学ぶ」と言われても、地方にとっては、具体的にどんな教育をすれば良いのかは迷うところ。コンソーシアムや学校運営協議会といった形はつくれても、教育の中身については、具体的なイメージがつかみにくい。資料には「例えば観光学」などと例が挙げられているが、そうすると、結局全国の高校が一斉に観光学を始めることになり、それでは地方の多様性が生かされない。地方の側からは答えが出しにくいので、ここはもうひとひねり、具体的な教育の中身を中央で研究する必要がある。

次に、地方にも関係することではあるが文化について。Society5.0では文化にAIの活用が強調されている。一方でAIにできないこと…として「専門的知識を持って対話・交流する・・・」と一文記載されている。それは結構だが、結局文化は「知識」として捉えられている。文化は、知識ではなく、哲学、感性、アイデンティティーである。

それが十分に共有されていないので、SGHでもSGUでも、文化・伝統の要件に関する目標設定が弱い。結局、祭りや伝統工芸の体験にとどまっている。もう少し文化を幅広くとらえて、例えば自然。「人がどう自然と共生してきたか」という視点で伝統行事を見れば、防災+文化の学習に。「人がどう手を入れて自然をより美しくしてきたか」例えば里山であれば、農業+文化の学習になる。

このように文化を幅広く捉えて、地方の学びに結びつけていかなければ、「地方の良さを学び」も絵に描いたモチになってしまう。